

田平沢自治区  
保存版

みんなで楽しく未来をつくろう!



# しもやまスマイルプラン

あなたの行動が「しもやま」を変える!

WE  
LOVE  
しもやま

2021.4 - 2026.3

## まちづくりに大切な2つのこと

### 1 『WE LOVE しもやま』

～下山への愛情と誇りを高める合言葉～  
下山には、たくさんのLOVEがあふれています。  
下山への想いを、みんなで形にしていましょ!

### 2 みんなで楽しく 未来をつくろう(共働)

住民が中心となって行う活動、行政が取り組む事業、  
事業者が地域のために行うこと、  
みんなで一緒に取り組むこと。  
同じ方向を見て、**共働**で楽しく活動しましょう!



新しくなった  
「WE LOVE しもやま」のロゴマーク  
周りにある18の円は11分野と  
7つの自治区を表しています。

## しもやまスマイルプランって何?

しもやまスマイルプランは、「下山の10年後の将来像」を見据えて、「まちづくりの方向性」を定め、事業を実施するための「具体的な取組」をまとめた、みんなが行動するための計画です。取組の内容は、11の分野と7つの自治区で、それぞれ検討しました。

まちづくりの方向性(10年間)

具体的な取組(5年間)

後期の取組

10年後の  
将来像

## 下山の10年後の将来像

子どもの声が聞こえ、  
笑顔で暮らせるまち  
しもやま



## みんなをめざす下山のまちづくりの方向性

### 下山に関わる人を増やして活力あるまちづくり

- 「定住人口」を減らさない取組にチャレンジします。
- 観光客などの「交流人口」と住民との交流の機会を積極的につくります。
- 地域活動への参加者の増加をめざして、「関係人口」を増やします。

### 住民主体の地域活動で持続可能なまちづくり

- 住民一人ひとりが地域の運営を考え、住民による自治活動を次代に引き継ぎます。
- まちづくりに関する地域内の団体が、そのあり方や活動内容を見直し、より適正な運営に努めます。
- 自治区と地域の関係団体、行政との連携を強化して、地域活動を活性化させます。

### 「安心感」と「わくわく感」が実感できるまちづくり

- 子どもからお年寄りまで、誰もが安心して生活できる環境をつくれます。
- 下山を盛り上げるために「やってみたい」ことを実現できるように、みんなで応援する機運を醸成します。
- 下山地域外からの来訪者が、親しみやすく、楽しめる環境づくりを行います。

## 具体的な取組

田平沢自治区の取組は、  
裏面をご覧ください。

発行	下山地域まちづくり推進協議会	2021年3月
問合せ	電話	0565-90-2111(事務局下山支所)
	FAX	0565-90-3344
	メール	shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp



# 田平沢自治区プラン

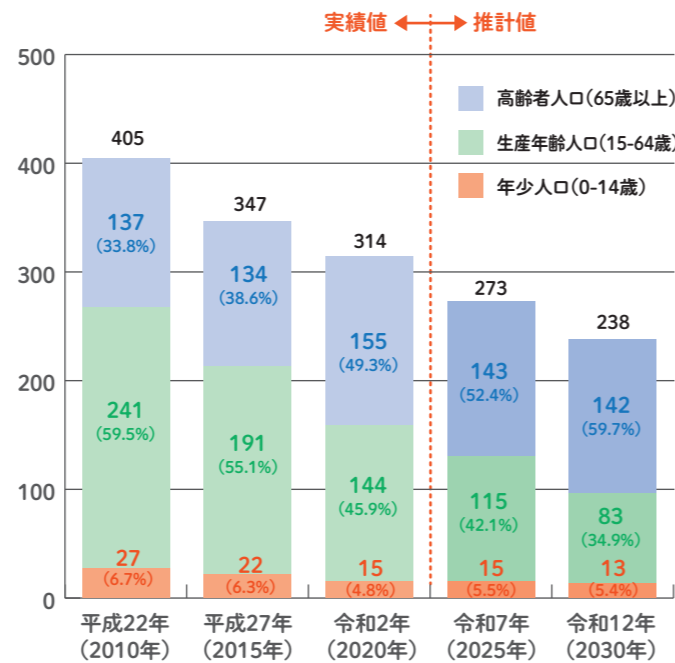
## 1 田平沢自治区の現状

### 人口の減少、特に若者世代の減少

- 令和2年の人口は314人であり、この10年間で91人減少しています。14歳以下の年少人口、15歳から64歳の生産年齢人口は大きく減少し、65歳以上の高齢者人口は増加しています。
- この傾向が今後も続くと、令和12年の人口は238人とさらに減少し、年少人口、生産年齢人口の減少は進み、高齢化は59.7%になると予想されます。

### 人口減少、高齢化が地域に及ぼす影響

- 田平沢自治区は東西に長く広がり、集落が点在していることから、自治区民相互の交流が気軽にでき難い環境にあります。このような地域性もあり、住民の減少と高齢化と共に、次の世代の担い手不足も重なり、地域の運営や行事などに支障が生じる恐れがあります。また、今後のひとり暮らし高齢者の増加、介護世帯の増加などが懸念されます。



年齢別人口のこれまでの推移と今後の推計

※各年10月1日年齢は学齢  
(実績値は住民基本台帳、推計値は豊田市下支所の推計)

## 2 田平沢自治区の10年後の将来像

- ▼ ひとり暮らしの世帯は増えていますが、気軽に集まれる場所があり、孤独になる人はいません。
- ▼ 自治区内では、誰もが楽しめるイベントが定期的に行われ、みんなが生き生きと活動しています。
- ▼ 進学・就職・結婚などで外に出ていった人も、盆の帰省時には地域みんなで集まり、地域とのつながりが維持されています。
- ▼ 地域の環境整備を通して、田平沢自治区の景観を美しく保ち、訪れる人にも田平沢の豊かな自然と美しい景観でもてなします。
- ▼ 地域の若い世代の自治区活動への参加がされており、自立した自治区運営が継続されています。
- ▼ 自治区や組の運営、行事やお祭りは、少しずつ形を変えながら、次の世代に引き継がれ、存続しています。

## 3 田平沢自治区の5年間の取組

### 取組1 住民同士のつながりづくり

地域の人々が気軽に集まっておしゃべりをする機会が少なくなり、近所同士の繋がりが希薄になっています。そのため、自治区内で自主活動グループを立ち上げ、いつでも集まれる場を作るとともに、自治区内での活動を活発にし、住民同士の交流を深めます。

### 取組2 田平沢転出者との関係づくり

自治区が開催するイベントには、転出した子どもや孫が多く参加し、地域に定期的に戻ってきてくれます。今後もこの繋がりを維持する取組を定期的に行います。このように転出してでも地区外から地域活動に参加し、田平沢を支えてくれる人を増やしていきます。

### 取組3 地域活動による景観維持

高齢化により、田畑を管理することが困難になり耕作放棄地や空き家が増えることが懸念されます。住民一人ひとりが財産管理に対する意識を高め、将来的に荒地や空き家になることを未然に防ぎます。また、もみじ街道や巴川沿いの環境整備を住民同士で協力して継続的に行うことで、地区外から来訪される方も魅了する田平沢にしていきます。

### 取組4 自治区運営を次世代に引き継ぐためのあり方検討

自治区や組、行事や祭りの担い手の高齢化が進んでいます。人口減少の他、若手の自治区活動参加が少ないことで、担い手がなくなることが懸念されます。自治区行事や祭りを次世代へ継承していくためにも、今後の自治区運営のあり方について検討していきます。

